

世界史 問題 I

【出題の意図】

南アジアの歴史が、ユーラシア世界の歴史と歩調を同じくしていることについて理解しているかを問う出題。

【正解・解答例】

問1 a: キタイ (契丹、遼)、b: セルジューク朝、c: ガズナ朝、d: エフタル (フーナ)

問2 非農耕地帯の住民については部族制をとり、漢人など定住農耕地帯の住民に対しては州県制で統治した。47字

問3

- ・一定程度の行動制約とジズヤ (とハラージュ) を支払う条件で、信仰の自由が認められ、保護の対象となった。48字
- ・(正統カリフ以前) 啓典の民はジズヤとハラージュを支払う条件で信仰の自由が認められ、偶像崇拝者は改宗を求められた。47字

問4 ヴィジャヤナガル王国

問5 契丹文字

問6 (イ)

問7 軍人や官僚が俸給の代わりに分与地の徴税権を与えられる制度。

問8 ペルシア語

問9

- ・ラージプート (or ヒンドゥー支配層) の娘を正妃に迎え、ジズヤを廃止し、ヒンドゥー諸侯を帝国官僚に迎え入れて協力体制をとった。また当時はウルドゥー語、シク教、バクティ信仰など、ヒンドゥーとムスリムの文化的融合が進んでいた。98字 (100字)
- ・ムガル帝国はジズヤを廃止するなどヒンドゥーとの融和政策を展開する一方で、ラージプートと婚姻関係を結んで彼らを体制内に取り込み、ヒンドゥー教徒が多数を占めるインドを安定的に統治することに成功した。97字

世界史 問題 II

【出題の意図】

14－16 世紀にヨーロッパの世界が広がったなかで、ハプスブルク家の動向を中心にした諸国間関係を適切に理解しているかを問う。

【正解・解答例】

問 1 アウクスブルクの和議

問 2 フェリペ 2 世

問 3 【解答例】フィリピンのマニラを中継地として、アメリカ大陸のアカプルコから銀、アジアから中国の絹・陶磁器等が運ばれた。

問 4 金印勅書、カール 4 世

問 5 (a) (第一次) ウィーン包囲 (モハーチの戦いも可)、(b) プレヴェザの海戦

問 6 レパントの海戦、セルバンテス

問 7 ユトレヒト同盟

問 8 無敵艦隊 (アルマダ)

問 9 ボヘミア (ベーメン)

【解答例】カトリックと新教 (プロテスタント) のあいだの宗教対立が国際紛争化したものだが、カトリックのフランスが新教側に立って参戦したことで、フランス対ハプスブルク (オーストリア) の政治的な覇権争いに転化した。

問 10 ウェストファリア条約 (ヴェストファーレン条約)、(イ)

世界史 問題Ⅲ

【出題の意図】

アメリカ合衆国の近現代史にかかわる重要な諸史料を手がかりに、正確な歴史的知識を問うとともに、それらの知識を踏まえて論理的に叙述する能力をみる。

【正解・解答例】

問1 A : 2、B : 5、C : 4、D : 3、E : 6、F : 1

問2 ① : C、② : D、③ : F、④ : E、⑤ : A

問3 ガンディー

問4 アメリカ・メキシコ戦争（米墨戦争）

問5 （1）ナポレオン・ボナパルト
（2）スペイン

問6 【解答例】小分けされたプランテーションの土地や、農具などの生産手段を、地主が解放奴隷などの小作人（シェアロッパー、分益小作人）に貸し付け、収穫の半分程度を受け取る制度で、小作人の多くが債務に苦しんだ。

問7 ソヴィエト連邦

問8 扶清滅洋

世界史 問題Ⅳ

【出題の意図】

問題文でも述べたように、文学者・思想家などを含む文化人のほとんどが王朝に仕える官僚でもあったことは近代以前の中国社会の大きな特徴の一つであり、近現代の中国における学問・学術の政治への従属の前提ともみなすことができるという意味でも重要である。このような状況について、与えられた語句をもとに歴代の官吏登用制度・試験制度（特に科挙）と官僚・文化人（士大夫）の社会身分の承認との関係についてまとめた上で、適切な解答を提示（例示）できるかを問う。

【解答例】

中国においては文化人・知識人として認められることと、官僚の身分を得ることが分かちがたく結びついていたから。中国では早くから中央集権的な官僚制度が発達し、それを運用する官僚の確保が必要であった。漢代の郷挙里選や魏晋の九品中正は豪族・貴族のような身分の固定を招いたが、もとは高い教養を持つ文化人を官僚として確保するための制度であった。隋唐から開始された科挙制度は詩文の才や経書の知識などを問う筆記試験であったが、宋代に入って文治主義を支える多数の官僚を生み出す制度として整備された。科挙は受験資格を問わない、公平で客観的な官吏登用制度と言われるが、実際に合格可能だったのは形勢戸と呼ばれる新興地主等の豊かな経済力を備えたものであり、彼らは科挙に合格して官僚の身分を得ることで社会的地位の保証を得て、士大夫と呼ばれた。明清時代においても科挙合格は文化人として認められるために必須の条件であり、郷紳と呼ばれる地域の政治的・社会的エリートとなるにも童試・郷試といった地方試験に合格することが前提であった。

(447字)